

●新年のご挨拶（2018-1-1）

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、再生可能エネルギーの普及・拡大に向けた取り組みに大きな動きがありました。その一つが11月にドイツのボンで開催されたCOP23です。この会議では2020年からの地球温暖化防止対策の新しい枠組み「パリ協定」実施に向け、世界各国の温室効果ガス排出削減目標の上積みを目指す「促進的対話」を2018年に実施することなど合意して閉幕しました。この会議にあわせて開設されたパビリオンでは米国の州やNPO、企業などの連合体が「パリ協定」順守をアピールしました。一方、世界の環境NGOが参加するCANから日本は、地球温暖化防止対策に逆行する国に贈られる「化石賞」を2年連続して受賞しました。

COP23の開催を前後して7月にはフランスやイギリス政府は2040年までにガソリン車、ディーゼル車の国内販売の禁止方針を、中国政府関係者も将来的なガソリン車の販売禁止をコメントしました。また、国際エネルギー機関(IEA)は、11月に太陽光発電が2040年までには多くの国や地域で最も低コストのエネルギー源となる見通し等再生可能エネルギーの未来が明るいことを発表しました。さらに、再エネ先進国であるドイツからは、4月末日に一時的かつ条件がそろった状況下で再エネが電力供給の最大85%をまかなったことが報告されました。

最近では、米国トヨタが家畜糞尿由来のバイオガスから水素を取り出し、燃料電池発電を行うとともに水素ステーションを併設し、MIRAIやトレーラーに水素を供給することを発表しています。

このように世界の情勢は再エネの一層の導入・普及に向けて確実に動き出しています。昨年、当協会は、インドネシアでの二つのプロジェクトを推進するとともに引き続き福島復興支援をしてきました。しかし、これらの活動は限られた会員によって行われている状況であり、本年度は、1月20日に開催される新春特別講演会を多くの参加者で成功させ、これを契機に微力ながら地球温暖化防止対策の一助となる活動の輪を広げていきたいと思っています。本年も当協会の活動へのご理解、ご協力の程を宜しくお願い致します。

副代表理事 奥村 実

●インドネシアプロジェクト状況（2018-1-7）

ジャワ本島タンギスジャワ(バンドン市の近く)のコーヒー農園プロジェクトのコーヒー工場では、プロジェクト協同組合以外の農家で生産されたコーヒー豆の精製(皮むき、発酵、焙煎、豆挽き)も開始され協同組合の収入源になりつつあります。また西バンドンにある代理店を通じてタンギスジャワコーヒー(ブランド名:タンギスの香り)の販売を開始し、西バンドンで開催された地元物産展への出品も行われました。



本格化した豆挽き



地元物産展への出品

●REPA 新春特別講演会・懇親会（2018-1-22）

平成 30 年 1 月 20 日（土）15 時より新春特別講演会が、湯島の全国家電会館にて約 80 名の参加者を得て成功裏に行われました。

第一部の講演は竹村公太郎氏の演題：「日本文明と新エネルギー」で、内容は日本の文化歴史から始まり、バイオマス・水力エネルギー等の自前のエネルギーの重要性、水力発電での自給率増大の進め方などで興味、関心、感銘を受けるものであり、参会者に大いに参考になり、今後の活動への示唆を多くいただきました。

第二部は児玉博氏による講演「企業の栄枯盛衰と経営者の判断」で、お相手は当協会堀内道夫理事でした。内容は講師の著書「テヘランからきた男 西田厚聰と東芝壊滅」で、経営者の判断が企業を危うくする、日本の将来への警鐘などお話を頂きました。再生可能エネルギー推進の舵取りも同じであることを感じました。講演後の懇親会も講師を囲んで時間のたつのも忘れ歓談がなされました。



講演会会場風景



尾園次郎代表理事挨拶



竹村公太郎氏講演



児玉博氏講演



児玉博氏と堀内理事



堀内通夫氏のまとめ